

vol. 2196

【発行】大分県高等学校教職員組合教宣部 大分市大字下郡496-38 大分県教育会館
TEL/(097)556-2838 FAX/(097)556-8998 MAIL/ohtwu@view.ocn.ne.jp

大分県高教組情報

【発行者】横道 信哉 【印刷】佐伯印刷(株) 【売 価】30円(組合員の購読料は組合費の中に入れて徴収しています)



今号の掲載内容 (掲載順)

- 2019年大分県高教組新春旗開き
- 日教組九州協議会 第37回「両性の自立と平等をめざす教育」研究会
第28回人権教育推進交流会
- 高教組結成70周年事業 (第21回高教組ボウリング大会&第26回高教組ゴルフ大会)
- 分会レク実施報告 (由布分会)

2019年大分県高教組新春旗開き

と き：1月12日(土) ところ：教育会館 201

新しい年を迎え、今年1年の運動を始動するにあたり、多くの来賓の方々、高教組支部・単組・専門部の代表者等の出席のもと「2019年大分県高教組新春旗開き」を開催しました。横道信哉執行委員長が、これからのとりくみに対する決意を表すとともに、出席者の方々からも、高教組運動への期待や励ましの声をいただくことで、私たちの運動の果たすべき役割とその責任をあらためて確認することができた会となりました。

委員長年頭あいさつ (要旨)

金沢大学の憲法学の先生の話を書く機会があり、改めて憲法の三大原則がいかに蔑ろにされているかを深刻に受け止めました。教員免許取得のための教職課程において、学生に憲法を学ぶ講義がなされておらず、私たちの社会を形作る基本理念が学ばれていないことに危機感が募ります。高校でしっかり教えて行こうということです。

三大原則は言うまでもなく、恒久平和主義、主権在民、基本的人権の不可侵です。そして、74年前の戦争で多くの戦没者を出したその痛恨の思いの凝縮が平和憲法前文であり、第9条です。1919年、100年前のドイツで生まれたワイマール憲法は世界で最も民主的な憲法でしたが、ヒトラーによって事実上停止状態、いわゆる緊急事態法(国家緊急権)を乱発して基本的人権も骨抜きにされてしまったのです。国民が注意を払っていないと権力者は力づくで鎖を解こうとする。官邸主導で平和憲法の鎖を解いていく暴走は許してはなりません。日本の友好国シンガポールのあちこちにある戦跡記念碑にはForgive, but never forget(許そうしかし忘れない)という言葉が書き込まれています。平和憲法が変えられたとき、この刻まれた言葉がどこに向くのか考えるべきです。

安倍晋三の年頭所感は、「戦後日本外交の総決算を果敢に進める」とぶち上げました。アベノミクスの成功、外交の安倍といった、もう国民にはバレてしまった嘘を成果としてかかげているあたり、今年も嘘をつき続ける宣言と受け止めるしかありません。

教育をめぐっては18歳成人にどう対応するのか大きな課題ですが、やはり鍵となるのは「主権者教育」の内容です。公共とか道徳と言った教科も始まりますが高校に期待されているのは「これからの社会を作り上げて行くために必要な市民的教養や知的スキルを身につけて行く教育」(教育総研)と言えます。私たちは、教育に及ぶ格差や貧困の課題を克服しながら「自分で物事を考えられる人を育てる教育」「未来の共生と連帯の市民社会実現のための教育」にとりくまなければなりません。そして、何よりも「民主主義」を一人ひとりの子どもたちが実感をもって学べる学校を作り上げなければなりません。さらに付け加えるなら健全な批判力と嘘を見抜く力も大切です。そのことが憲法の求める教育であり、目的です。

賃金改善に加えて、教職員の生命と健康を守るとりくみ、無定量化超勤状況の解決、ハラスメントをなくす職場作り、ワークライフバランスの実現等々課題は多くありますが、職場に安心を作って行く責任を担うのは高教組です。組合員の団結を力とし、対話を運動の軸に組織の拡大と強化を図ります。そして、この国の行く末に大きく関わってくる当面する自治体選挙、夏には参議院選挙が実施されます。私たちの推薦する日政連議員をはじめとする候補予定者全員の必勝を期さねばなりません。

「ごぞ今年貫く棒のごときもの」(高浜虚子) 高教組はぶれずに進みます。

ご挨拶をいただいたご来賓の方々

則松佳子日教組書記次長

佐藤寛人連合大分会長

佐藤義朗県平和運動センター長

吐合史郎県労協専務理事

日教組九州地区協議会

第37回『両性の自立と平等をめざす教育』研究会 第28回人権教育推進交流集会

と き：12月26日(水)～27日(木) ところ：全労済ソレイユ他(大分市)

12月26日(水)～27日(木)、日教組九州地区協議会第37回「両性の自立と平等をめざす教育」研究会(両性研)・第28回人権教育推進交流集会が開催され、全国教研で発表されるレポートを中心に学習と交流を深めるとともに、レポートの補強を行いました。大分高教組からは、人権教育推進交流集会の人権教育分散会に、時枝武敏さん(人権教育推進委員・由布分会)の「『人権の視点を中心に据えた学年経営』って～学ぶことは変わること～」を、両性研には、後藤恵美さん(自立平等教育推進委員・佐伯豊南分会)の「(『繁殖活動・家父長制復活推進教材』に抗って)生きる力を身につけさせる巣立ち講座」を発表しました。今回は大分開催と言うこともあり、各支部より両性研に10人、人権教育推進交流集会に18人の参加がありました。



人権教育推進交流集会

時枝武敏(リポーター・由布分会)

人権の視点が見えなくなった学校現場への学年主任としてかかわった3年間の教員集団づくりのとりくみをレポート報告しました。たくさんのお意見や考え方をいただき、自分がやってきたことの整理ができました。本当に実り多い交流集会でした。

中野幸弘(中津北分会)

5年前長崎で行われこの会に同じリポーターとして参加していた鹿児島の方に出会いました。その時は、ちょっとだけ不安そうで初々しい発表でしたが、今回は一般参加でいろいろと質問している。つながっているなあと思いました。若い人たちに人権教育の素晴らしさを伝えていく責任みたいなものを年々感じている私にはうれしい出来事でした。1本のレポートについて、じっくり話ができる九協の人権交流集会はやっぱりよかった。

清末昭博(別府翔青分会)

人権教育分科会は静かに、しかし熱く論議が深まったと思う。今回は司会者として分科会に参加した。討議の柱に沿った円滑な進行ができなかったことは悔やまれるが、参加者からレポートに沿った発言を、自身の経験を交えながらいただいた。その発言内容は、自分の教職員としての変わり目を再確認する言葉でもあった。忘れがちになりやすいことに気づかされる。そのような機会に参加し続けなければと思った。

大川 博(佐伯鶴城分会)

長崎県の「カネミ油症“を”学ぶ カネミ油症“に”学ぶ」では、「カネミ油症」について聞いたことはあるけれ

ど何も知らなかった。知らなかったけれど、面白くなさそうだなと思ってしまっていた。しかし、発表を聞いてみると、自分が一番興味を持ったレポートだった。今更ながら知らないことが山ほどあると言うことを実感した2日間であった。そして、もう1つ強く思ったことは、「若い人たちと勉強したいな、何か伝えていきたいな」と言うことである。自分が若い頃は学習の機会がたくさんあったが、今では「部落」と出会えていない人も多い。若い人たちと一緒に参加できる場がたくさんあるといいなと思うし、積極的に声をかけていきたい。

渡邊 洋(佐伯豊南分会)

人権にかかわる講演等でよく「当事者」という言葉が使われる。参加者や子どもたちにより差別の現実をリアルに伝えるために「当事者」を招いてということだろう。とても大切なことだと思う。しかし、「当事者」とは何だろうか。多くは「被差別者」を表していることが多い。しかし、差別は「差別される人がいるから差別があるのではなく、差別する人がいるから差別がある」ことを考えると、差別する側(差別を支える側)としての「当事者」があるはずだ。つまりその事に対する「私の当事者性」をしっかりと自分



に問うことを常にしなくてはならない。その視点を失うと、「(被差別者としての)当事者」に頼らないと学習できないことになり、自分自身の立ち位置を失ってしまう。もうひとつ、被差別の状況にある人が人前で話すことがどういふことなのかその思いをしっかりと受け止めているかその事も忘れてはいけない。そんな事を振り返る2日間だった。

沼田 庄司(中津東分会)

高校入学してから、その年に退学を決意するムラの子A。Aの退学後も、そして自分の転任後も関わり続けたという熊本高からの報告がありました。退学してからが、おそらく本人にも親にも困難があると思えて、大切だとわかっていてもなかなかできなことです。関わり続けることがAの母が立場についてAに伝えることにつながっていくことなど、部落問題に教職員が向き合う意義を改めて感じました。

河村 幸夫(大分西分会)

学校で部落問題を中心とした学習にとりくむ中で、部落差別解消推進法の制定をふまえた実践をするとともに、子どもたちはもちろん、教職員自身も学ぶことが大切であると感じました。人権教育は、全教職員でとりくむことに意味がありますが、成果と課題を知ることができました。宇佐市での組織的な人権学習のとりくみや沖縄での、地域性を活かした人権や平和に関する学習についてのとりくみなど、大変新鮮で、自分もこの体験を通じて学びたい気持ちが強くなりました。

竹本 哲也(日田林工分会)

最も印象に残ったのは、鹿児島高の「高校生の普通ってなんですか?」でした。教職員が良かれと思ってとりくんでも、子どもにとっては「させられている」と感じたり、少人数授業でも「人間関係が凝縮されていて苦しい」と感じていたり、実は型にはめられているだけなのではと考えさせられました。ある程度ルールに乗せてあげないと進路が拓けない現状もあり、このジレンマと正面から向かいあっていかなければと強く感じました。

荻野 尚子(大分支援分会)

他県の方々と教育活動について話すのは本当に良いですね。多忙とは思いますが、大分で九州や全国の行事があるときは「チャンス」と思って参加してみてください。必ず「参加して良かった」と思えるものがあります。今回の私にとってのそれは、知的障害を有する子どもが通う支援学校で寄宿舎教師として働く方のレポートでした。

田畑 幸子(別府支援石垣原分会)

「障害」見教育分科会、小学校の支援学級、寄宿舎の2本のレポートでした。支援学級担当の先生が「交流」学級の子どもたちにも関心を寄せて教育ができているという内容と、寄宿舎の教職員が高等部の子どもたちの実習にライフサポートという形で関わったという内容でした。いずれも、同じ価値観の教職員が身近にいるからこそできた、ま

た、その子について共通認識・理解をもつことができるからこそできたというレポートだったと思います。職場に理解し合える仲間が居ることの大切さ、また、同じ価値観でなくても子どものために職員が理解し合えるような環境を作っていかなければならないと改めて思った分科会でした。

両性の自立と平等をめざす教育研究会

A分科会「労働・家庭、意識・慣習の見直し」

中野 梨花(新生支援) 馬見塚 淳(大分鶴崎)

発表者の思いや実際の行動について聞き、「性別で分けない教育」の推進の大切さを改めて強く感じました。「慣習など無意識でやってきたことを考えてみて」考えを切り替えていくことが重要ですが、それなくして推進することは難しいと気づかされました。

養教とクラス担任とのTTで「家族らしさ」「自分らしさ」の授業にとりくんだ実践や、家の仕事調べによって母親がやりたくて家事をしているわけではないという気づきから、自分の生活を振り返らせるような実践があり、示唆に富んでいたと感じました。

永松 博美(大分雄城台分会)

レポート発表、総括討論を通じて思ったことは、「知る」ことの大切さです。知らなければ疑問にも思わないし、心にもひっかからない。知るにはやはり学習しなければ。名簿のこと、制服のこと、学校行事のこと、教材に知らず知らずのうちに戦争を想起させる言葉が増えていること、、、などなど、この会に参加しなければスルーしていただろうことがたくさんありました。子どもたちが社会に出てどう生きていくかの指針をもたせられるように、いろんな人の意見を聞いて、(今回はできなかったが)発言をして、つながることが一番の学習だと思いました。

B分科会「性の教育、意識・習慣の見直し」

栗林 久美(別府翔青分会)

1982年12月26、27日の第1回から日にちが固定で開催されている研究会です。家事が最も忙しい年末のこの時期に、女性が家を空けて学習に参加することを自ら家庭内でたたかいとってこることが意義です。定年を意識し始めたここ数年、学習しながらも自分がやり残したことを少しでも実践しようと試みています。この研究会に参加して、自分が学習し大切にしていることの意義を更に実感することができました。



後藤 恵美 (リポーター・佐伯豊南分会)

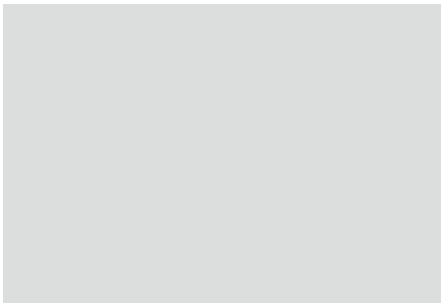
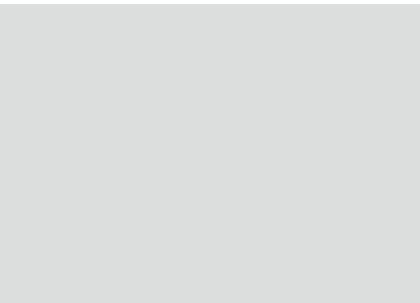
分科会では、九州各県で導入が進んでいる「性別で分けない名簿」推進のとりくみが報告されたり、性別固定概念にとらわれず、ありのままの自分でよいという道徳の実践やホームルーム活動の時間のとりくみが報告されたりしました。この分科会で「(「繁殖活動・家父長制復活推進教材」に抗って) 生きる力を身につけさせる巣立ち講座」と

題したり報告を行いました。漢字の問題集に軍隊用語が数多く盛り込まれていること、「繁殖活動」「家父長制復活」を盛り込んだ指導書の記述が増えていることを指摘し、全ての教科・科目で同様のことが行われていることを私たち教職員が自覚して授業にとりくまなければならないと伝えました。参加者からは「そんな視点で教材を見たことがなかった」との驚きの反応がありました。

高教組結成70周年事業 第21回高教組ボウリング大会&第26回高教組ゴルフ大会

第21回高教組ボウリング大会 (12月8日 (土) OBSボウル)

今年度の高教組ボウリング大会は、組合員はもとより、臨時・非常勤教職員の方、高退教の方を含む合計35人での開催となりました。今年は参加者が例年に比べて大幅に増加し、日頃の運動不足解消とストレス発散をしながら、和やかで楽しい時間を過ごすことができました。大会後に行った参加者有志による懇親会も大いに盛り上がりました。



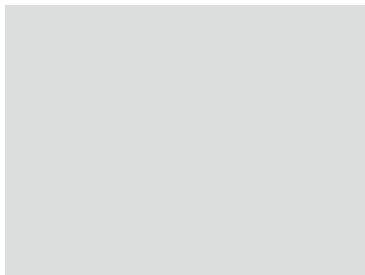
個人優勝 小池理恵さん (大分鶴崎分会)

団体優勝 佐伯豊南A

第26回高教組ゴルフ大会 (12月29日 (土) 中央ゴルフクラブ)

今年で25回目を迎えた高教組ゴルフ大会は、年末押し迫る忙しい中ではありましたがゴルフ愛好者の組合員をはじめとする参加者33名で開催されました。寒気の厳しい中でスタートしましたが、風もなくよいコンディションで、昼前には防寒着を一枚脱ぐほどの暖かさとなりました。コースは比較的狭く高低差があるホールも多く、特にグリーンは高麗芝でボールが止まりにくいと簡単ではありませんでしたが、和気あいあいとした雰囲気の中、楽しくラウンドすることができました。プレー後の表彰式・閉会式では時間が下がっていたにもかかわらずほぼ全員が出席し、見事優勝した馬見塚剛さん(大分市議会議員)に賞賛の拍手を送りました。最後は横道委員長の「ガンバロー」三唱で締めましたが、そのとおり日ごろの疲れをいやし明日からの活力を生むような一日でした。今回参加された組合員の皆さん、お疲れさまでした。今回都合で参加できなかった組合員の皆さんもぜひ次回は参加してみたいかがですか。

順位	名前	所属	ネット
優勝	馬見塚 剛	大分市議	71.8
準優勝	姫野 正二	県平和センター	72.0
第3位	麻生 周典	爽風館通	73.0



分会レク実施報告

高教組では、ボウリング大会やゴルフ大会のような福利厚生のための各種行事だけでなく、組合員が主体的に企画するレクリエーションも推奨し、補助を出しています。今回は、由布分会がおこなった分会レクを紹介します。

12月6日(木) 期末考査で皆が揃って時間を作れることをいい機会とし、レクリエーションと反省会を通して、講師の人たちの思いや悩みを聞こうとスケート大会を企画しました。当日になり急用で参加できない人が数名でしたが、結局6人でわいわいと楽しい時間を過ごし、反省会では様々な話題でみんなの思いを確認できました。講師の人は次の日に今年一番に楽しい時間だったと話してくれました。

